

2024年（令和6年）5月28日（火曜日）（16）

点呼に健康データ活用を OCHIS「両輪会」 健康起因事故撲滅へ

ヘルスケアネットワーク（OCHIS、武田裕理事長）は22日、大阪市で安全と健康を推進する協議会（両輪会）を開いた。会の代表を務める



会場とウェブ配信のハイブリッド形式で開催
（写真は作本副理事長）

作本貞子副理事長は、「定し方」。冒頭、作本副理事長は「物流DXでデータ活用が求められている中、健康に関する情報も同様だ」と訴えた。今回、一例として点呼を取り上げ、運輸ヘルスケアナビシステム[®]を導入中の20社を対象に、点呼時に健診結果を公開しているかの調査結果を公

開。「活用している」は7社だったのに対し、「活用していない」は13社だった。担当部署間の連携が難しい理由を分析すると、「点呼担当部署と健診結果を扱う部署が異なり、連携が難しい」が最も多く53%を占めた。「点呼担当部署が健診結果を生かそうという気持ちがない」といった声も聞かれ、管理者の意識改革が必要な実態も明らかになった。作本副理事長は健康起因事故の撲滅に向け、運行管理者が

普段の健診データを把握することで、点呼時に「おかしいな」と思った時に対応できる」と説明した。また両輪会では、運輸ヘルスケアナビシステム[®]で得られた最新の知見を共有。企業事例では、三和運輸機工の中山学常務と、水戸ヤクルト販売グループでトレンドイ茨城の谷萩寛子常務が登壇し、健康増進策を解説した。ウェブ視聴を含めた60人の参加者は熱心に聞き入っていた。

（遠藤 仁志）